

PHD LETTER

54

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT 1995 - 4

- 95年度事業方針..... 2 P
- 帰国研修生からの見舞い、励ましの手紙..... 3 P

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

発行:財団法人PHD協会
 編集人:草地賢一
 住所:〒650神戸市中央区元町通5-4-3 元町アーバンライフ202
 TEL(078)351-4892 FAX(078)351-4867
 郵便振替:01110-6-29688 財団法人ピー・エイチ・ディー協会
 定価:100円



PHD協会事務所周辺のビル解体作業現場

神戸のまちから

事務所の中にいると地震のあったことを忘れてしまうこともあります。街を歩けば、そのツメ跡から1月17日が蘇ります。

たくさんのお励ましありがとうございました。皆様のご支援をいただき、元通りとはいえませんが、かなりの程度で仕事ができる体制に戻ってきました。一方、淡路島、阪神間の会員・協力者の中には大きな被害の方々も少なくありませんでした。謹んでお見舞い申し上げます。

街のあちこちではビルや家の解体が行われ、とてもホコリっぽくなっています。学校、公民館、公園のテントなどの避難所で生活する人たちは今なお、かなりの数おられます。阪神、阪急、神鉄はまだ寸断され、道路も混み合い、交通はまだ不便です。電気は早い時期に復旧しま

したが、ガスと水道は時間がかかっています。お店はだんだんと開き始めています。全般的には落ち着きつつありますが、元の生活ペースに戻るには、まだまだ時間がかかりそうです。

地震直後の被災者の必要は共通することが多かったのですが、ここに来て被災の程度、地震前の立場や状況、経済力、家族構成、年齢などによってその必要の内容、度合いに差が出てきています。復興を急ぐ行政の思惑と住民との間のズレも目立ってきました。直後は皆、ペットボトル一本の水が必要でした。今は住居、仕事、融資など、それぞれの個人ごとに異なった必要がでてきています。体の不調を訴える人がいます。地震時に受けたショックやその後の不安定な状態が原因で精神的問題を抱える人もいます。そこで大切なのは、その必要を満たしたり、障害を乗り越えたりすることが自力で

できる人とできない人に分かれることです。もともと弱い立場にあった人が、この震災でより厳しい状況におかれています。その状況から支援する側も、自力でやれない人を優先することや、自立を促す内容であることが求められるようになってきています。善意だから何でもやればいいということではないことは日頃、私たちがアジア・南太平洋への支援の中で学んでいることです。

日本での生活はすべてがうまくまわっていれば、便利で快適ですが、一旦機能しなくなれば、電気、ガス、上下水道、電話などすべて会社が直してくれるまでお手上げ。整った中でしか生活できないひ弱さと、日常生活のもろさを感じました。ものを大切に使うことや人のつながりの再認識、数多くのボランティアの活躍が今回のような災害救援だけに終わらず、日常の地域活動として定着して欲しいことなど、この震災を通じて考えたことはたくさんあります。また、不幸な出来事の中にも国内、海外から多くの暖かい協力によって支えられた恵みから、共に生きる仲間の存在を感じました。そこから、生活の上の困難と闘っている人がこの地震の被災者だけでなく、今も世界の各地に多くいることを改めて覚え、その人たちにも共に生きる仲間を感じてもらえるための私たちの行動を忘れてはならないと思います。

主任主事 藤野達也

求められる息の長い支援

この震災に関し、日頃PHDの活動に参加している皆さんがすばやく立ち上がりました。PHD協会が援助活動の音頭をとるまでもなく、各地の方々が自発的に動き、勇気づけられました。また臨時号の調査ハガキにも沢山のご返事、協力申し出をいただきました。さらに、被災支援の募金にもご協力を頂戴し、3月末現在で180件、2,975,406円となりました。この募金分は被災先での必要と支援活動経費として使わせていただいています。ありがとうございます。

- (1) 会員・協力者による自主的活動
物資・食料品収集と提供、炊き出し、安否確認、医療活動、義援金、避難所手伝い、高齢者介護、車両提供など、当方で把握しているほうが少ないと思います。
- (2) 「阪神大震災地元NGO救援連絡

会議」の設立、運営への協力
(3) PHD協会の調整による活動
状況調査・情報交換、ボランティア希望者対応、避難所運営手伝い(物資仕分け、物資・食料配布/本山南中、上甲子園小)、倒壊家屋からの荷物出し(東灘区)、引越越し(灘区、東灘区)、避難所の子供の遊び相手(西灘小)、他団体との協働(ボランティア受付、情報整理、炊き出し、食材仕分け、廃棄冷蔵庫のフロンガス回収、障害者介護、避難所への人形劇公演手配、被災者支援バザー/神戸学生青年センター、東灘情報センター、応援する市民の会、被災「障害」児・者支援の会、灘区ボランティア、すばる舎、らくいち商会、兵庫県子ども劇場おやこ劇場協議会、アースデーinあしや、兵庫区ボランティア、中央区ボランティア) など。

4月になり、これまで多くを支えていただいた遠方からのボランティアが引き上げていく状況で、地元のボランティアへの引き継ぎや必要度の高い活動への絞りこみが必要になっています。長期的には、救援ボランティアから日常生活の中でのボランティア活動への定着化、前と同じ生活に戻すというより、前よりも多くの人にとって、特に弱い立場の人に住み良いくらしをめざす復興活動であること、行政側との十分な情報・意見交換、連携などが大切です。

これからもPHDのネットワークを生かし、他のグループ、団体とも協力し、被災者支援の活動も続けていきます。被災地からの支援要請、皆さんからの協力申し出は引き続き受け付けます。

震災救援活動団体の連絡、調整のために

阪神大震災地元NGO救援連絡会議
代表 草地 賢一

1月17日午前9時30分頃私は神戸市北区の自宅から六甲山系の再度山(ふたたびさん)の中腹にある金星台という展望台に立っていました。たくさんの山崩れの箇所をぬうようにして、不思議に恐怖感を持たずにたどりつきました。金星台は神戸の中心街三宮から長田、須磨の東部一帯までを見渡せる場所です。

三宮あたりは数カ所のビル等から火が出ていました。兵庫区、長田区、須磨区の浜手からの炎は中空で猛烈なけむりとなって三本から四本の巨大な帯になり更に上空ではそれがつながりあって大きな黒い雲になっていました。眼下の家並みは古いものほど屋根の瓦が飛んでいました。

私は茫然たる思いでそれを見ながら、被害の規模が大きいこと、そのための緊急救援活動もまた大規模なものになることを予感していました。その後金星台を降りて元町のPHD協会の事務所へ辿りつき、ここでもその内部の散乱状況に茫然とし

ました。
1月18日の夜、私は東京NGO関係の友人に救援活動の連絡調整の必要性を訴え、助言を求めました。

1月19日午後、1986年から組織していた神戸NGO協議会を母体にして「地元市民(NGO)救援連絡会議」(仮称)を一、二の参加団体と協議して発起しました。その時点では「連絡調整」の内容は漠然としたままでした。仮事務所を神戸YMC A一階ホールのかたすみに置かせてもらい、PHD協会の職員、ボランティア、そしてビルマのトゥントゥン、ソロモンのルーク君などと一緒に少しずつ立ち上げていきました。

1月28日、毎日新聞神戸支局長の厚意を得て同ビル3階のホール半分を事務所に借用し移転しました。この時点で会議の名称を()を取って「阪神大震災地元NGO救援連絡会議」にしました。

現在被災地で活動する団体、グループ約160が関わり3月末までに5回の「救援連絡会議」を開きま

した。団体間の情報交換、共通の課題例えば物資供給、外国人救援、情報サービス、行政への申し入れ、ボランティア活動の記録・まとめ、古文書・重要書類の救出保管、復興への市民提言、被災市民の自立支援等の活動への連絡、調整を進めてきました。この会議の原則は救援活動の現場にある働きへの中間支援であり、会議自体が事業を進めない、あくまで連絡調整に徹することにあります。しかしボランティアが急速に撤退しつつある現状にあって今までより少し積極的な働きが求められています。具体的には活動現場への人材、情報などの供給、救援活動団体間の緊密な連絡調整の支援などが従来続けてきた前述の活動に加えられねばなりません。そのためには連絡会議自体の人材、財政的な強化が求められています。PHD協会の理事者、職員の理解によって総主事の私は連絡会議に派遣されています。

震災後2ヵ月半、今から被災者自身が復興へ向けて自立していく時期です。そのための救援、応援が求められています。

会員・協力者の皆さんから震災後に寄せられた声の一部をお届けします。

千葉・市川市 山崎 実

今ここで自分が何かしなければ、自分に対してずっと悔いを残すことになると思う。被災者の方たちとどこまで気持ちを共有できるか自分自身が試されているのだと思う。(よく考えてみると、これはPHDの考え方に通じるものではないか!?)

兵庫・丹南町 渡辺 省悟

復興計画のなかで都市計画が中心に議論されているかにみられますが、飽食と開発、都市集中と農村過疎など今までの現代文明に反省を加えることが大切。今回の震災で強烈な印象を受けた、新しい世代に真の復興への期待を寄せたい。

兵庫・三田市 小宮 純子

地震後、以前にも増して簡素な暮らしをしようと心がけております。

ケニア・西村 由美子

私はこんな遠くで何をやっているの?国際協力なんて言う場合じゃないじゃない!何もできないはがゆさでいっぱいです。やはり今は私は、私の与えられたこの場所で働くしかありません。この、私のとなりにいる人といっしょに・・・自分の足元がぐずれたのに、手先でこそ何かをしているようなこのディレンマつらいなあ・・・なんて言ってちゃだめだね。今まで日本の人たちにたくさん激励してもらってきた私、こんどはお返ししないといけない。気持ち、お手紙しか送れないけど、本当にがんばって下さい。フレー!フレー!

神奈川・川崎市 上西 哲雄

震災についての支援は、地元のNGOが声を出し、全国の支援者がそれに反応するという発想は、アジアの人達が主体的に自立の道を探り、私達はそれを助ける、そして対等に交流する、というPHDの発想と相似していますね。

京都市 岩田 来司・恵子

PHDのモットーであるおのおの物そして心の両面の10%をささげ・・・を神戸にむけてどうささげたら良いのかを考えています。

兵庫・稲美町 三上 博

避難生活を送られている方々、それを支えているボランティアの方々、お互い助け合って毎日を一生懸命生きていきましょう。
「生きるとはわかちあうこと」

広島・廿日市市 阿武 秀治

普賢岳の噴火災害や奥尻島の震災も発生当時から衝撃だったが、次第に他人ごとになってしまった。今回は他人ごとでなく、私自身も大きく考えさせられました。

大阪・枚方市 井原 由美子

被災された方々に深くお見舞い申し上げます。実際に体験された方々にしかわからないつらさ、悲しみ、また団結して助け合う喜び・・・さまざまなことを糧にこれから力強く生き抜いてください。きっと乗り越えたときには、すばらしい幸せなことが待っています。全国の人々が見守っています!前向きにがんばって下さいね!!

PHDの活動をみなさんの地元で創ってみませんか!

1月の震災によりPHDの地元、神戸、阪神間で従来行われてきたバザー等は、会場や人手の確保が難しくなります。昨年94年度には、広報としてだけでなく財政的にもPHDの活動を支える意味で、意識して多くのバザーに参加してきました。そこで、今年95年度は、新たに全国の会員・協力者の皆さんのお力を借りたいと思います。

文化祭
★パネル、会報などで、PHDの紹介コーナーを。
★クラス、クラブなどの発表に。

布の委託販売
(ソディー)
委託の窓口になって動いて下さる方募集。
★家で、会合で。
★喫茶、雑貨屋、洋服屋などのお店で。
★おつかいものに。

バザー出展
★いろんなヒト、モノが集まってくる寄り合いのバザーに。
★グループ、サークルで主催されるバザーに。

講演会
お声をかけて下さば、野を越え山越え、出かけてしゃべります。
*アジア*国際協力*ボランティアなど。
スライドも使用可。

皆さんの地元でPHDの紹介の場を作して下さい。会員同士の出会いの場にもして下さいと嬉しい!ご自分に当てはまるものでご参加下さい。打合わせで、物品・会報・パネルなどを組合わせて荷作りして、送ります。

説明する者が必要だという時には、やりくりすれば、職員やボランティア派遣も可能かも。これなら出来るという方、ぜひご連絡ください!!

イラスト/うみのはにわ

よろうや神戸!

当会では、これからも継続的に阪神間の救援活動に取り組んでまいります。具体的には、①他団体との協働で避難所、福祉分野の支援、②被災地の子どもたちを対象とした農業体験プログラム(予定)等です。活動は、被災地の需要になるべく見合った形で行いたいと思いますので内容は様々です。

何らかの形で関わってくださる方を募集していますので、どうぞ当会までお問い合わせ下さい。お待ちしております。

ボランティア、国際協力について、楽しく学び、一歩踏み出せるようなPHD連続セミナーを企画!4月末スタート。
金曜日午後6:30~8:30
1. 4/28 震災からボランティアを見つめ直す
2. 5/12 日常生活の中でのボランティア
3. 5/26 世界の中の日本を知る
4. 6/2 アジアから見た日本
5. 6/16 国際協力のいろいろ
6. 6/30 PHDで出来ることは場所神戸市内で調整中。
参加費:6回通して¥2,500・各回¥500 ぜひご参加下さい。要申し込み。

PHD NEWS

<会費・ご寄附寄託状況>

1994年11月	96件	1,891,847円
12月	790件	10,381,750円
1995年1月	245件	2,347,836円
2月	502件	8,467,753円
3月	206件	2,463,931円
	1,839件	25,553,117円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴いたしました。ご協力に厚くお礼申し上げます。

<スタディツアーのご案内>

帰国した研修生を訪ねる旅を下記の2つ予定しています。

1. 夏・インドネシア、スマトラ
12期生ラディアエリタさんほか8名の研修生を訪ねる旅。
2. 冬・タイ、北部・東北部
94年度短期生プリチャーさんほか7名の村を訪ねる、布のグループとも出会える旅。
また、職員出張に同行で、少人数による旅もネパール、フィリピンなどで検討中です。お問い合わせ下さい。

<会費納入に関するお知らせ>

PHDレター51号でお知らせしていました会費の郵便貯金による自動振込は、システム導入に見合う希望者数に満たなかったため、今回は見送らせていただきます。時期を見てまたご連絡させていただきます。

今回の震災で大きな被害を受けられた会員につきましては95年度会費を頂かないことにいたします。お申し出下さい。



編集後記

国際協力の仕事をしてみたいと職員になって3年弱、この春長くもあり短くもあった疾風怒涛の日々に別れを告げることにしました。思い起こせば、何でもありの業務内容、分かってはいたけどやっぱり悪かった労働条件、職員になってはじめて分かるNGOの問題点……。国際協力について、NGOについて、それを支える会員、ボランティア、職

員の関係について、そして自分自身について学び、考えさせられました。

一番良かったことは、人との出会い。研修生は10期生の途中から12期生まででしたが、豊かな日本にどっぷり浸かっているひよわな私などがお世話するなんてとんでもない。彼らのたくましさや優しさにしっかりお世話してもらっていたというのが正直なところでした。

お世話をしてもらったと言えば、たくさんボランティアの方々。未熟な私がここまで何とかやってこれたのも、皆様の温かい励ましと助けがあればこそ、どれだけお礼を申し

上げても足りません。そして、ここを離れて皆様にお会いできる機会が少なくなることの寂しさはどんな言葉でも表現しきれません。

それから研修旅行など何かの折りにお世話になった皆様、直接お会いできなくてもこのレターを通してお会いしていた皆様、これをお礼とご挨拶の代わりとさせていただきますことをお許しください。

PHDに関わるたくさんの方々のご多幸を祈りつつ。

<編集メンバー> 柳下 恵子
居月 理絵、伊藤 由美子、片岡 はる、
篠原 登子、松波 めぐみ、宮田 早夏

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。